

禁野本町遺跡 —百済寺の北に広がる街—

● 禁野本町遺跡と百済王氏

禁野本町遺跡は、方形街区をもった古代の都市遺跡です。南に位置する百済寺跡は奈良時代後半～平安時代の百済王氏の氏寺とされ、その北に広がる禁野本町遺跡は同氏一族が居住した街と考えられています。

百済王氏は、朝鮮半島の南西部にあって、7世紀後半に滅んだ百済国の最後の王である義慈王の末裔です。奈良時代中頃(8世紀中頃)に陸奥守(現在の宮城・福島県など、当時の陸奥国の長官)であった百済王敬福が、陸奥国で産出した黄金を東大寺の大仏に鍍金するために聖武天皇へ献上したことが、同氏が大きく発展する契機となったようです。

その後、一族は、奈良時代後半頃(8世紀後半)には摂津国百済郡(現在の大阪市東住吉区・生野区付近)から河内国交野郡(現在の枚方市中宮付近)へ移り住んだと考えられており、このことは発掘調査成果の蓄積からも、裏付けられてきています。



8・9世紀の東アジア



百済寺跡・禁野本町遺跡の航空写真(平成23年、南から撮影)